

京都フィロムジカ管弦楽団

第46回定期演奏会

2019年12月22日(日) 午後2時開演 八幡市文化センター (大ホール)

《 曲 目 》

ニコライ・リムスキー-コルサコフ / 交響曲第3番ハ長調

Николай Римский-Корсаков (1844-1908) : Симфония № 3

- I. Moderato assai - Allegro
- II. Scherzo : Vivo - Moderato - Vivo
- III. Andante
- IV. Allegro con spirito

—休憩—

アントニン・ドヴォルジャーク / 交響曲第8番ト長調

Antonín Dvořák (1841-1904) : Symfonie č. 8

- I. Allegro con brio
- II. Adagio
- III. Allegretto grazioso - Molto vivace
- IV. Allegro ma non troppo

指揮：岡本 一生

お客様へのお願い

～誰もがより楽しめる音楽会にするために、皆様のご協力をお願いいたします～

- 携帯電話・アラーム付腕時計など音の出る機器をお持ちの場合は、電源を必ずお切りください。
- 演奏中の私語は固くお断りいたします。
- 客席での飲食、喫煙、写真撮影、許可のない録音・録画は固くお断りいたします。
- 補聴器が異常音を発することがございます。ご使用の方はご注意願います。
- 演奏中の客席へのご入場は固くお断りいたします。
- 「せきエチケット」にご協力ください。せき、くしゃみがこらえられないときは、ハンカチやタオル等で口と鼻をおおうよう、お願いいたします。なお、演奏中の「のどあめ」の使用は、開封の音がかえって周囲のお客様のご迷惑になりますので、ご遠慮願います。
- 演奏者が音を出していなくても音楽が続いている場合がありますので、物音をお立てにならないよう、ご注意ください。

指揮者

岡本 一生 (おかもと いっせい)

大阪教育大学教育学部教養学科芸術音楽コース卒業。大阪教育大学大学院芸術文化専攻を修了。

トランペットを有馬純昭、伊藤義介に師事。指揮法をズラタン・スルジッチに師事。

卒業時に同大学の成績優秀者としてYAMAHA 管楽器新人演奏会、関西新人演奏会に出演。YAMAHA のインストラクターとして関西を中心とした各地の吹奏楽の普及に尽力した。

2009年に京都府立高等学校の音楽科の教員として採用され、2010年、2011年に京都府代表として関西吹奏楽コンクールに出場。



♪ プレ・コンサート ♪

午後1時20分より

今回のプレコンサートはロビーではなくホール内で行いますので客席にてお楽しみください

久石 譲 (編曲：福田 洋介) / 『となりのトトロ』メドレー

フルート：筒井 オーボエ：嶋谷 クラリネット：藤田 ファゴット：中野 ホルン：岩井

言わずと知れた、ジブリ映画「となりのトトロ」から、4曲のメドレーです。

オープニング曲「さんぽ」、サツキとメイ一家が引っ越す場面で流れる「五月の村」、庭に植えたどんぐりが大木へと成長するシーンでの「風のとおり道」、そしてエンディングテーマの「となりのトトロ」。どの場面も印象的で、「トトロと言えば!」という名曲たちが揃っています。

今回演奏するメンバーは、比較的新しく入団したメンバーが中心となっています。フレッシュなメンバーで送る、トトロとサツキ、メイの冒険物語をお楽しみください。

ドヴォジャーク / 弦楽四重奏第12番「アメリカ」より第1楽章

ヴァイオリン：坂、高谷 ヴィオラ：渡邊 チェロ：多田進

ドヴォジャークがアメリカ滞在中に作曲した作品で、彼の室内楽作品中最も親しまれている作品のひとつです。今回はゲストコンミスの坂先生を中心としたメンバーでお送りします。

曲目解説

遠藤 啓輔(トランペット)

リムスキー-コルサコフ／交響曲第3番 ハ長調 作品32

リムスキー-コルサコフ(1844~1908)はロシアの作曲家で、有名なチャイコフスキーとほぼ同世代である。リムスキー-コルサコフは幼時から音楽の才能を発揮し作曲もしたが、海軍軍人を多く輩出する貴族の家に生まれたため、海軍兵学校で学び海軍軍人として青年時代を過ごした。この異色の経歴は、むしろ彼の独創性に結び付いたと言えよう。彼は、現役の軍人時代には遠洋航海で世界各地を巡ってその雰囲気を感じた。軍を辞した後も海軍軍楽隊の音楽監督となり、管楽器の扱いに習熟していった。これらの経験が、異文化への憧れに満ちた旋律や、管楽器を効果的に使ったオーケストレーションといった、リムスキー-コルサコフの個性を生み出したと考えられる。リムスキー-コルサコフは、彼と同じく音楽とは別の仕事を持っていたボロディンなど、個性豊かな作曲家たちと共に「ロシア5人組」の一人とされる。その「5人組」の一人であるバラキレフに師事して作曲を学んではいたが、体系的な指導ではなかったため、独学で作曲の理論を身につけた。そして、若くして音楽院の教授に任命されてからは、さらなる自己研鑽を重ねた。

今回演奏する交響曲第3番は、作曲者20歳代、まだ海軍軍人の地位にいた1866年から73年にかけて、中断をはさみながら作曲された。さらに彼はこの曲を、1886年に改訂した。この年は、彼が音楽院で教授を務めるようになって10年以上が経過し、オペラの成功も重ね、彼の人気作となる『シェヘラザード』を作曲する2年前という時期にあたる。独学で古典音楽を勉強していた青年作曲家の真摯な発想と、大家としての地位を固めつつある大作家の円熟したオーケストレーションが同居した、稀有な傑作と言えよう。

第1楽章はゆったりとした広がりがある序奏で始まる(譜例①)。弦楽器を主体にしつつ管楽器を適宜加えるオーケストレーションだが、ホルンのおおらかな響きと木管の清涼な音色が見事に対比され、色彩豊かな音絵巻が冒頭から展開される。この音楽が徐々に推進力を増し、ついにはトロンボーンも加わって扇情的なエネルギーを高め、アレグロの主部へとなだれ込む(私見だが、この部分でのトロンボーンの悪魔的扱いは、ショスタコーヴィチ交響曲第4番の第2楽章へと受け継がれているように感じる)。譜例①に力強さを加えた快活な第1主題、クラリネットが妖艶に歌う第2主題、という明確に性格が異なる2つの要素が、展開部を経て丁寧に再現される。こうした模範的なソナタ形式から、青年作曲家の自己研鑽の成果が見て取れる。しかしながら、決して教科書的な陳腐な音楽に陥ってはいない。それは、2拍子の音楽と3拍子の音楽がさりげなく接続されていて、それが音楽の流れに程よい変化と緊張感をもたらしているからである。また、管楽器のソロとヴァイオリンのソロが歌を交わす繊細で美しい箇所と、ロシア音楽らしい分厚く豪放なフル・オーケストラの合奏との対比も、この楽章を変化に富んだものになっている。

コーダは音量とテンポを徐々に緩めてゆく。こうして消え入るように終わるのかと思いきや、唐突にアレグロのテンポになって譜例①を演奏して終わる。こうした人を食った意外性も魅力である。

譜例① 第1楽章冒頭

(ヴァイオリンとホルン)



第2楽章は、スケルツォ主部-中間部(トリオ)-スケルツォ主部、の3部形式を取る。この楽章で独創的なのは、スケルツォ主部が5拍子で書かれていること。5拍子の音楽は、チャイコフスキー『悲愴交響曲』の第2楽章やホルスト『惑星』の「火星」などほかにも例があるが、これらは1小節が「2+3」できている

ことが明瞭である。これに対してこのリムスキー-コルサコフの5拍子は、5拍の中に切れ目を見出しづらい(譜例②・③の上段)。そしてこの5拍の律動が無限に続くような印象を与え、音が渦を巻いているようにさえ思われる。海の男であったリムスキー-コルサコフの本領が発揮された音楽と言えるかもしれない。

中間部(トリオ)は3拍子の落ち着いた音楽となるが(譜例③の下段)、肉厚で遅い響きはいかにもロシア音楽らしい。

そしてこの楽章の圧巻は、スケルツォ主部の再現にある。序盤は5拍子の音楽が提示部と同様に再現されるが、途中から提示部にはなかった2拍子の音楽が5拍子の音楽に重ねられて意表を突く(譜例②)。しかも終盤になると、3拍子のトリオの主題が再現されて、やはり5拍子の音楽に重ねられる(譜例③)。2拍子と5拍子、3拍子と5拍子、いずれも割り切れない。これら異なる複数の拍子の音楽が同時に進行する様は、まさに前衛音楽である。リムスキー-コルサコフは19世紀にこのような斬新な音楽を書いていたのだ。

譜例② 第2楽章・スケルツォ主部再現部
5拍子の音楽(上段)と、2拍子の音楽(下段)が並行する。



譜例③ 第2楽章の終盤
5拍子のスケルツォ主部(上段)と、
3拍子のトリオの主題(下段)が並行する。



第3楽章は遅いテンポによる3部形式の楽章。どこか懐かしさを感じさせる民謡風のメロディーがゆったりと歌われる。師バラキレフが中央アジアの民謡を収集していたことからの影響か、リムスキー-コルサコフも民謡への関心が深かった。簡潔なオーケストレイションでいながらも色彩感はきらびやかで、遠い桃源郷への憧れのようなものを感じさせる。対照的に中間部はテンポを速めて、フル・オーケストラが前衛的な和音で頂点を築く。

後半は民謡風のメロディーが再現される。そうした幸福感に満ちた静寂の中、遠くからラッパの音が呼び交わし合う。すると、まるでそれに呼応してコサック兵が突然集まってきたかのように、重量感ある音楽が爆走する第4楽章へとなだれ込む。この楽章も第1楽章と同様、対照的な性格を持った2つの主題が対置される形式美を誇る。また、ピッコロが新たに加わり、色彩をさらに豊かにする。そして終盤では、巧みなテンポ変化によって音楽をじわじわと少しずつ盛り上げ、大団円を導く。

ドヴォジャーク／交響曲第8番 ト長調 作品88

Dvořák を日本語で表記するのはちょっと難しい。「ドボルザーク」「ドヴォルジャーク(今回、チラシ等ではこの表記を使用)」「ドヴォルジャック」など様々にカナカナ表記されるが、原語(チェコ語)読みに比較的近いのは「ドヴォジャーク」だそうだ。ニューグローヴ音楽大事典(講談社)でも「ドヴォジャーク」と表記されており、今後「ドヴォジャーク」表記が市民権を得ていく可能性があるので、このパンフレットでは「ドヴォジャーク」との表記で統一したい。

ドヴォジャークは 1841 年生まれで 1904 年没だから、前半で演奏したリムスキー=コルサコフと同世代である。ドヴォジャークの出生地は、チェコの古都プラハからやや離れた（現在でも鉄道を乗り継いで 1 時間ほどかかる）ネラホゼヴェスという風光明媚な村である。彼の生家は、音楽好きの領主が住む美しい城の眼下にあるばかりでなく、カトリック教会やヴルタヴァ（モルダウ）川、そして鉄道のいずれもが至近にあった。まるでドヴォジャークの人生を決定づけるような環境である。ドヴォジャークは信仰心が篤い人で、彼が作曲した宗教音楽はいずれも傑作である。またドヴォジャークは、自然の美しさを愛する一方、蒸気機関車が大好きな鉄道ファンという一面も持っていた。そのせいか彼の音楽には、鳥のさえずりの模倣が聞こえたかと思えば、急加速するエンジンのような迫力が襲ってくる、といった面白さがある。

ドヴォジャークは幼いころから、教会の合唱団や村の楽団で活躍し、地方在住の音楽教師たちから指導を受けていた。そして 16 歳でプラハのオルガン学校に入学し、本格的に教会音楽を学んだ。卒業後はプラハのオーケストラで首席ヴィオラ奏者として活躍し、そのかたわら作曲もした。リヒャルト・ヴァーグナーの指揮で演奏したこともあり、そのせいかドヴォジャークの作品には、和声の色彩感にヴァーグナーからの強い影響が見受けられる。後に教会のオルガニストの職を得るが、30 歳代後半からは作曲稼業に専念するようになる。

そして 1884 年、ドヴォジャークは人生の一大決心をする。プラハからかなり離れた田舎の村であるヴィソカーに家を借りて移り住んだのだ。故郷のネラホゼヴェスがヴルタヴァ川に面して岩山がそそり立つ厳めしい風景であるのに対し、ヴィソカー周辺はなだらかな丘陵がどこまでも続く優しげな光景である（表紙写真参照）。ドヴォジャークにとってヴィソカーの風景は衝撃的に美しかったと思われる。彼はここで、大好きな鳩を飼育するなど、自然と共生した生活を送る。プラハ在住時は雑事が終わった夜に作曲していたというが、早寝早起きを好んだドヴォジャークは、ここヴィソカーで自分らしい朝型の生活を取り戻したことも想像に難くない。本日演奏する交響曲第 8 番は、このヴィソカーでの生活が 5 年になろうとする 1889 年に作曲された。こうした恵まれた状況を反映してか、信仰、朝、自然、鳥、鉄道といったドヴォジャークが好きなものがすべて盛り込まれた作品と言って良い。

第 1 楽章は低音を主体としたほの暗い旋律で始まるが、神を象徴する楽器であるトロンボーンが用いられていることから、信仰告白的な音楽であることがわかる。これに続いてフルートが鳥のように爽やかに囀ると、音楽が劇的に明るくなる。朝の到来を力強く表現したものと思われるが、その破格のエネルギーはまるで機関車の急加速のようだ。鉄道ファンとしてのドヴォジャークの嗜好が思わず出てしまったようで微笑ましい。

その後、どれが中心主題なのか判別しがたいほど多くの主題が湧き出すが、中でも十字架音型（楽譜にすると 4 つの音符が十字を描くように並ぶ音型）から始まる落ち着いたメロディー（譜例④）は、ドヴォジャークの真摯な信仰心が表れている。

譜例④ 第 1 楽章の木管楽器による主題

冒頭 4 つの音符を結ぶと十字になる



またこの楽章では、弱音器を付けた金管楽器やイングリッシュホルンが、わずか一瞬のためだけに用いられる。コストパフォーマンスが悪いことこの上ないが、それだけドヴォジャークがこれらの音色にこだわったことがわかる。弱音器付きの管楽器は、死の世界や夜の世界を象徴的に描くために古くから使われてきた。また、イングリッシュホルンは、ベルリオーズ『幻想交響曲』で、夕闇が迫る野辺を描くのに使われた楽器である。つまりこれらの楽器を使用した場面は、死者の魂たちが跋扈する夜の世界を表現していると言えるだろう。朝を愛した作曲家ドヴォジャークは、それだけに夜の描写にも敏感であったようだ。

第2楽章は3部形式のゆったりとしたアダージョ楽章。荘重で神々しいトロンボーンがこの楽章では使われておらず、軽やかな明るさと素朴な人間味が前面に出ている。この楽章ではヴァイオリンのソロが、おおらかに伸びやかな旋律を歌う。農業が機械化される以前、農民たちはこのような歌を声にしながら畑を耕していたのではないかと想像する。この旋律に鳥の声が加わり、田園の中で生きる人間の喜びが明るく描かれる。

一方、峻厳とした深い響きにブラームスからの影響が感じられる中間部は、突然襲ってきた嵐のような激しい音楽である。この嵐が過ぎ去った後は、幸福感に満ちた歌が再現される。そして楽章の最後には、トランペットの弱音が、遠くから聞こえてくる教会の鐘の音を模倣する。ささやかだが幸福な日常を神に感謝しているかのようだ。

第3楽章は楽しげな中に憂いの表情も混じった舞曲。教会での祈りと楽しい舞踏は、ヨーロッパの農村では一体のものだという。礼拝の日は午前中に教会でミサをおこない、同じ日の午後に踊りをまじえた饗宴を催すのだそうだ。前楽章の最後で教会の鐘が聞こえてきたが、これと連続した舞踏の音楽は、農民の楽しみを実態的に描いていると言えよう。また、ドヴォジャークの父は民族楽器ツィターの名手で、自ら舞曲を作曲してさえいたそうだ。ドヴォジャークの音楽的ルーツに迫る楽章と言えるのかもしれない。

そしてこの舞曲は、表情が悲喜こもごも複雑であるのと同様に、構成もかなり複雑だ。例えばブルックナーが交響曲に導入した舞曲は4小節単位で推移する極めて簡潔なものであるが、ドヴォジャークのこの舞曲は、4小節単位と6小節単位がつなぎ合わされており、しかも最後は唐突にテンポを速めて踊り狂うのである。名もなき田舎人たちが楽しみ受け継いできた複雑で奥深い文化を、交響曲に取り入れたのだろうか。

第4楽章は高らかに鳴り響く教会の鐘を模したようなトランペットで始まり、信仰告白的な音楽であることが冒頭からわかる。一方で、人間味あふれる雄弁な弦楽器や、フルートが模倣する楽しげな鳥のさえずりなど、遅い農民の姿や美しい自然の情景も盛り込まれている。とりわけ終盤に挿入された静謐な音楽は、果てしなく続くなだらかな丘陵地帯の中に立っているような気分になり、ヴィソカー周辺を散策するドヴォジャークと感覚を共有できる思いがする。ただしこの楽章は、基本的には豪快な推進力にあふれており、最後は機関車が疾走するようにして終わる。ドヴォジャークが好きなものすべてを盛り込んだこの作品の総括にふさわしい。

なお、この交響曲第8番は、ドヴォジャークがベートーベンの『田園交響曲』（交響曲第6番）を意識して作曲したのではないかと僕は想像している。第1楽章の最後にトランペットが3連符の連続を高らかに吹くが（**譜例⑤**）、この意味が全曲の最後になって明らかになる。第4楽章の最後で、この3連符が少し形を変えてトランペットとホルンで再現されるが（**譜例⑥**）、これはベートーベンの『田園』第3楽章のホルンの音楽（**譜例⑦**）とそっくりなのだ。ベートーベンを深く尊敬していたドヴォジャークは、美しい田園地帯であるヴィソカーでの生活を経て、ベートーベンのように『田園交響曲』を書きたいと思いついたのかもしれない。

譜例⑤ 第1楽章の最後近く

トランペットが3連符を吹く



譜例⑥ 第4楽章の最後

(トランペットとホルン)



譜例⑦ ベートーベン『田園交響曲』第3楽章

(ホルンとファゴット)



京都フィロムジカ管弦楽団

Kyoto Philomusica Orchestr

Koncertní mistr

コンサートミストレス

坂 茉莉江※

Housle

ヴァイオリン

稲葉 道一
イム ジョンミン
小幡 拓也
安江 絵美子
渡辺 達之輔
小川 紀之・
河下 倫子・
桑元 紳・
柴田 絵美子・
須田 謙史・
高谷 祐介・
森川 貴之・
安原 由克子・
渡邊 隆寿・
坂 茉莉江※
福澤 敬子※

Violy

ヴィオラ

室屋 晃子
上田 秀樹・
甲斐 幸子・
小坂 智子・
富安 翔太・
濱田 大貴・
古田 直道・
牧平 佳子※
木村 保威※

Violoncella

チェロ

内田 裕之
奥村 友梨香
多田 進
西山 峻司
松浦 由香
秦野 貴生
高村 誠・
多田 和子・
岡野 正義※

Kontrabasy

コントラバス

山口 奈央子
田中 明江
田中 郁太郎
清水 遥・
日浦 啓全・

丸山 拓史・
寺村 有史※

Flétny

フルート/ピッコロ

澤田 智美
筒井 愛
永井 沙織
(Pikola)
御園生 香
(Pikola)

Hoboje

オーボエ/イングリッシュホルン

嶋谷 賢治
(Anglický roh)
西川 紗希
服部 光紀

Klarinety

クラリネット

植山 彩花
浦野 幸栄
藤田 遥

Fagoty

ファゴット

中野 徹・
村上 美穂・

Lesní rohy

ホルン

岩井 文香
砂土居 真央
西村 莉香・
檜原 花織・
岡林 由希子※

Trubky

トランペット

遠藤 啓輔
北山 武志

Pozouny

トロンボーン

西村 杏香
宮下 秀行
安田 泉穂

Tuba

チューバ

北垣 菜々実・

Tympány

ティンパニ

木村 祐※

・ : 団友

※ : 客演奏者

団長

多田 進

事務

西村 浩

客演コンサートミストレス 坂 茉莉江

1989年、大阪生まれ。相愛大学音楽学部を特別奨学生で卒業。モーツァルテウム音楽大学大学院を満場一致の最優秀にて修了。第60回全日本学生音楽コンクール大阪大会高校の部第1位、並びに全国大会第3位、大阪国際音楽コンクール高校の部第2位、第3回神戸新人音楽賞コンクール優秀賞などを受賞。「モーツァルト生誕250周年記念関西フィルコンサート」にて故羽田健太郎氏のピアノと共演、「オーストリア・ボーデンゼーフェスティバル」にてファジル・サイ氏のピアノと共演する。

これまでにソリストとして関西フィルハーモニー管弦楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、日本センチュリー交響楽団と共演、多数のアマチュアオーケストラとも共演を重ねる。2016年ザ・フェニックスホールにて「第66回朝の光のクラシック」坂茉莉江ヴァイオリンリサイタルを開催。

中島美子、本多智子、小栗まち絵、大谷玲子、イゴール・オジム、ウォンジ・キム・オジムの各氏に師事。2015年9月、日本に帰国し、ソロ、室内楽奏者として幅広く活動している。

弦トレーナー 岩井 英樹

名古屋芸術大学卒業。ヴァイオラを西岡正臣、ウルリッヒ・コッホ、ジークフリート・ヒュアリンガーの各氏に師事。1997年より大阪フィルハーモニー交響楽団ヴァイオラ奏者。

管トレーナー 山崎 雅夫

京都大学卒業。現在、京都大学交響楽団金管トレーナー。トランペットをC. マクベス、A. ハーゼス、M. アンドレの各氏に師事。

京都フィロムジカ管弦楽団「友の会」会員様ご芳名

松村 里香様	戸田 たか子様	豊田 正勝様	平井 正公様
杉本 幸子様	石川 美保子様	山本 均様	
鎗本 和弘様	土屋 健太郎様	長田 洋一様	匿名の会員様
西坂 壽美子様	平井 健様	吉田 壽子様	

2002年4月に発足しました「友の会」は上記会員の皆様方よりご支援いただいております。(11月現在)
新規会員募集中です。詳しくは裏表紙をご覧ください。

京都フィロムジカ管弦楽団からのお知らせ

♡第47回定期演奏会♡

2020年6月28日(日) 文化パーク城陽・プラムホール 指揮：葛城 郁也
グラスノフ／祝典序曲
ハイドン／交響曲第100番『軍隊』
チャイコフスキー／交響曲第2番

♡新入団員随時募集中♡

～私たちと一緒に演奏しませんか？ まずはお気軽に見学にお越しください。団員一同、お待ちしております。～
私たち京都フィロムジカ管弦楽団は、近畿のみならず全国各地に在住する団員が週に一度京都に集まり、力を合わせて活動しています。定期演奏会だけでなく、アンサンブルなども楽しんでいます。「一緒に演奏したい！」という皆様のご参加をお待ちしています。遠方からのご参加も歓迎します。関西地区以外の方々もご興味があればぜひご連絡ください！

＜募集パート＞

ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ・コントラバス **(ヴァイオリン・ヴィオラ急募！)**
ファゴット **(ファゴット急募！)**

ホルン・トランペット・打楽器 ※打楽器は、諸条件について要相談

〔参加資格〕 特にありませんが練習に出席できること。学生の参加も歓迎します。

〔練習日時〕 原則日曜日(午後1～5時)、春と秋に合宿練習(滋賀県内)

〔練習場所〕 京都市内の各所のほか、大津市など。

〔諸費用〕 団費3000円/月(学生は1000円)、演奏会参加費など

※遠距離割引、学生割引、家族割引などあり(ご相談ください)

入団・見学に関するお問い合わせ先 E-mail: recruit@kyotophilos.com

♡「友の会」会員随時募集中♡

フィロムジカの活動を応援して下さる方を募集しています

【年会費】 1口 1,000円

【期間】 ご入会いただいた月より1年間

- 【特典】
1. 期間内の定期演奏会に、1口につき1名様を無料ご招待
 2. その他演奏活動のご案内
 3. 定期演奏会プログラムへのご芳名の掲載

お申込み・入会に関するお問合せ Tel & Fax 075-605-0123 (西村) E-mail: tomo@kyotophilos.com

京都フィロムジカ管弦楽団ホームページ

<http://www.kyotophilos.com/>

過去の演奏曲も紹介しております。是非一度ご覧ください。